

第1章

新たな観光交流都市^{まち}づくり計画の策定

1 観光交流都市づくり計画の目的

本市では、平成18年度（2006年度）に策定した「歴史を活かした観光振興計画」（平成24年一部見直し）に基づき、10年間、短・中・長期的な観光振興施策を展開してきました。

この間、自然や歴史を活かした観光や観光客のニーズに応じた、観光メニューの開発など行ってきました。

団体旅行客から個人旅行客へ、また、外国人観光客が増加していく中、新たな**観光資源の発掘と既存観光資源の磨き上げ**などが必要です。

このような、観光を取り巻く環境の変化を踏まえ、本市の観光を持続的且つ効果的に事業を推進していくための方策を明らかにするとともに、市民、観光関連団体、観光関連事業者が適切な役割分担のもと、互いに協働して取り組むための指針として、この**新たな観光交流都市づくり計画**を策定します。

2 新たな観光交流都市づくり計画の進め方

(1) 計画の期間

この計画は、平成28年度（2016年度）を初年度とし、平成37年度（2025年度）を目標年度とする10年間を対象とし、5年後に見直しを行うものとします。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度	平成 37 年度
短期（早期に取り組む）	—————→									
中期（段階的に取り組む）	—	—	—	—	—	—	—			
長期（期間中に取り組む）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

事業の見直し

図1 計画の期間

(2) 計画の背景

今日、観光はまちづくりにとって不可欠な事業として大切な役割を担っています。国の地方創生事業戦略の重点施策の一つになっており、地方活性化にシフトされてきました。

近年、我が国の観光は、海外からの観光客が増加傾向にあり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、官民の注力が期待されている状況にあります。

一方、中・長期で見ると、我が国の観光市場は、避けられない人口減少と超少子高齢化の方向にあり、国内の観光市場も減少することが予想され、これからは「国際観光の戦略」が不可欠となっています。

本市においては、国際空港（国際観光）の玄関口として、新たな観光交流都市づくりの訪日観光の教育旅行、国際コンベンション、スポーツ大会等の基地として、^(注) 目的型・滞在型交流の構築・形態の重要な計画策定の意義とチャンスと言えます。

また、観光立県にとって、国際観光の海港とともに空港の役割は期待されていると言えます。

(注) 観光の目的となるような場所（観光地）

(3) 新たな観光交流都市づくり計画に向けて

本市は、春から初夏にかけて大村公園を中心とする花々が咲き誇り、多くの観光客が訪れていますが、その他の観光施設は、観光客の伸びに課題を残しています。

一方、本市は四季をとおして、海・街・里山の豊かな自然や歴史文化の観光資源を有しており、さらに、観光交流都市づくりに活かすことが要請されています。

また、長崎県は「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」世界遺産登録を目指している中、本市のキリシタンの歴史は切っても切り離せない話題性のあるキリシタン発祥の地として、本市を大いにアピールし、国内はもちろん韓国人観光客をはじめとする**アジアからの観光客の誘客**に努めます。



大村公園



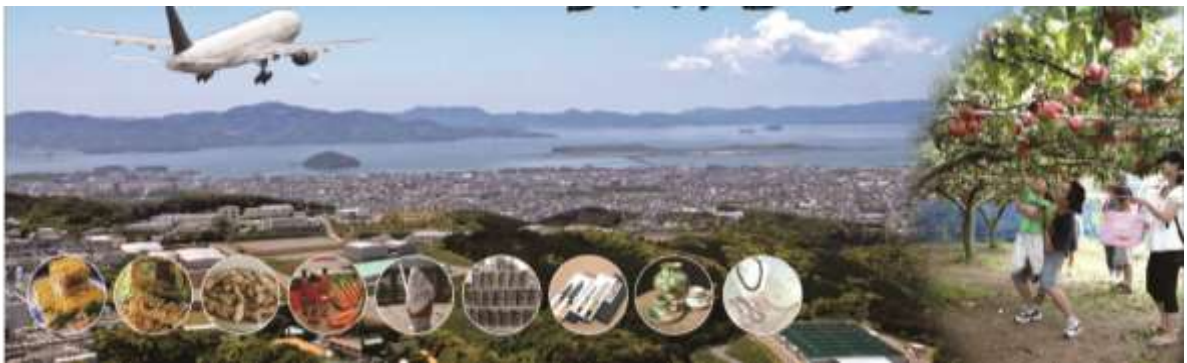
仏の谷（キリシタン史跡）

更には、中国、台湾、香港、東南アジアなど訪日外国人の増加に伴い、日本文化体験などの観光メニューを開発し、**国際交流拠点となる新たな観光戦略**を推進します。

平成34年（2022年）春には九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）が開業される予定であり、**新大村駅（仮称）の周辺となる街づくり**と、本市の豊かな自然と歴史・文化に触れるためには**二次交通の整備**に合わせ新しい観光コースの開発が必要です。



きもの体験



琴の海の大村湾に浮かぶ長崎空港



ローマを指さす天正遣欧少年